

2017年8月8日(火)

## 日刊自動車新聞

# 年販10万本を目指す

## 大平潤販 DPFクリーナー

潤滑油などを販売する大平潤販(中島裕晶社長、東京都港区)は、DPF(ディーゼル微粒子捕集フィルター)専用クリーナー「スーパーディーゼルクリーナー」の年間販売数で10万本を目指す。本格的に販促を始めた6月から約2カ月でディーラーを中心に4千本を販売。今後はガソリンスタンドや整備工場への営業を強化する。

同製品は、自動車用オイルやタイヤカスト用離型剤大手の青木科学研究所(青木久治社長、東京都港区)が開発、製造している。今後はDPF用のほか、ディーゼルエンジンの関連の各種クリーナーを開発

し「グローバルニッチ企業」(青木社長)として世界トップクラスのシェアを狙っている。

クリーナーの販売では、大型車メーカーとのネットワークを生かしディーラーにアプローチしている。「3カ月に1本、燃料満タン時に燃料タンクに直接注油することでDPFの目詰まりや故障、燃費悪化を解消する」(中島社長)といった特徴をアピールし、さらに年間2万円と部品交換よりも低コストな点を訴える。

大平潤販は、ディーラーに加えガソリンスタンドや専門の整備工場に拡販する。現在

ディーラーが売り上げの75%を占めているが、整備業者にも資料などを使いメリットを説明するだけでなく、使用前後のデータ、実績を開示、さ

らに自社サイトなどネット通販にも力を入れることで、月間平均販売数1万本、年間販売数10万本を目指す。